

平成18年度事後評価結果（平成18年11月）

[研究開発課題名] 多次元ナレッジマネジメントを可能とする高度ペタバイトXMLストレージの研究開発

[委託機関名] 株式会社 メディアフュージョン

項目	評価	総合所見
総合所見	B	<p>(技術関係)</p> <p>モバイル端末向けに大量のコンテンツを高速に管理、検索・配信するデータベースシステムは本研究開発以外に見あたらず、この点で技術的な優位性は存在するが、国際的にも市場性が高いだけに、競合する企業等も数多く今後存在すると考えられる。このため、パフォーマンス向上に向けた検討を早急に行い、実績ベースでの早期のサービス展開が望まれる。</p> <p>なお、我が国のIT領域における地位向上のためにも、ビジネスに特化するだけでなく学会等通じた啓発活動や標準化活動等パブリックリターンを期待したい。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>現在、製品化されているテラバイト級を超えるペタバイト級のデータベースの販売計画であり、日本の の米国現地法人と3年後の実用化に向けた共同開発の実施と、当該製品のファーストユーザとして 情報配信サーバシステムを納入することを計画しており、事業化に対する確度は高い。また、 や医療分野などペタバイト級のデータベースに対するニーズも十分に存在しており、一定の収益納付が期待される。</p> <p>(評価がBになった原因に関する分析)</p> <p>本案件の事後評価結果は、A評価にわずかに足りないB評価と判定された。</p> <p>この原因は、特許や論文等の有効な知的財産の取得が全くないこと、及び学会等を通じた啓発活動や標準化活動が十分行われなかったことが大きな要因となっている。</p> <p>(1)本研究開発に基づく事業化計画は、特許等を取得していく戦略ではなく研究開発成果を販売用のソフトウェアとして展開していくものであること。</p> <p>(2)標準化活動等については、非常に多くのスタッフによる長期間の対応が必要であるが、受託者の会社規模ではこのような体制をとることが困難であること。</p> <p>以上の2点を考慮すると、本案件はA評価にわずかに届かない点数であるが、技術達成度や将来の事業化において、A評価と大差ないものと判断する。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。